

全国農政連推薦・農政連公認
参議院議員藤木しんやの

永田町でも「百姓宣言」

「政策立案の場に身を置いて」

〔農林水産大臣政務官に就任〕

令和4年8月12日に発足した第2次岸田改造内閣において、2019年の就任に続き、2度目の農林水産大臣政務官を拝命しました。当日は総理官邸にて大臣政務官の辞令交付を受け、総理官邸での記念撮影、大臣政務官初会合が開かれたあと農林水産省へ初登庁しました。

野村哲郎農林水産大臣の下、野中厚副大臣、勝俣孝明副大臣、角田秀穂政務官と協力して、全国の農業者のための政策実現に向けて全力で取り組み、より一層、農家の声を国政に反映させていきます。

19歳で就農して以来、一貫して生産現場で農業と向き合ってきました。こうした農業経験を持つ国会議員は他にいません。農業を生業としていたからこそわかること、JAの組合長を経験していたからこそ分かること、農家の声、JAの声を国政に届ける、私の使命は、そうした現場感を政策立案に反映することです。これからも現場に向きながら一生懸命努力をする農家・JAの皆さまと共に、よりよい農業環境を作り新しい風を吹き込んでいきます。

いと思っています。

生産資材価格の高騰、農畜産物の価格低迷、コロナ禍の長期化、自然災害の頻発など農業現場の課題は山積しています。また、食料安全保障を確立するため今秋から食料・農業・農村基本法の見直しなど大きな政策転換に取り組むこととなります。

農政の大転換期である今、農林水産行政の政策立案の現場で、持てる力の全てを職務の遂行に注ぎ込み、農家・JAの声を国政に反映させ、農業者のための農業政策の実現を進めて参ります。今後ともご指導ご鞭撻を賜るよう、よろしく願います。



▲第2次岸田内閣で就任した各省の大臣政務官らと

全国・農政連推薦

参議院議員山田としおの

農政問題に斬り込む

「コメ政策は歴史的にも危機的な局面にきています」

今一番心配なのは、「国が主食たるコメの管理から手を引く」、「それを決断したのではないか」ということです。

これまでのコメ政策の動きを見ると、生産・流通・販売はすでに制約がなくなってきました。あれほど苦勞してきた生産調整のことも言え、「自由な生産・流通・販売」の世界に突入しようとしているのです。

JAグループは食糧管理制度の中核として取り組んできていたが、もはや制約はありません。もちろん、国はそうは言っていないし、「主食たるコメについて国民への安定供給を進める」としています。

しかしその運用たるや、「自由な生産・流通・販売の世界で生ずる諸課題は生産者やJAが自ら考え、その結果は自らで受け止めて下さい」という運用になっています。

もちろん協同生産・流通・販売をしっかりと支えているJAも多くあります。組合員もJAも、協同の取り組みの意義を十分考えておいでだからです。「協同の取り組みで成果を実現してきた」という自負が生産者にもJAにもあるからです。

こうした努力にもかかわらず、ここ数年の米価低落は我慢がなりません。作物には豊凶があり、その克服のために生産者もJAも大変な苦勞をしてきているのです。しかし、自由な生産・流通・販売の世界を実現して、食の安定供給と美しい国土を失っていいのでしょうか。国の在り方としていいのでしょうか。

規制改革推進会議という新自由主義者による、「競争でこそ安価な食の安定供給や農業の生産性向上が可能になる」という妄言に引きずりまわされて、大切な「日本」を「国土」を失うことは絶対にできません。



▲全国農協青年組織協議会の佐藤会長(右)らと面会